

// 制作関係者の声 //

株式会社 エンジョイ日本（元 新風館）
知見雅彦さん



エネルギー

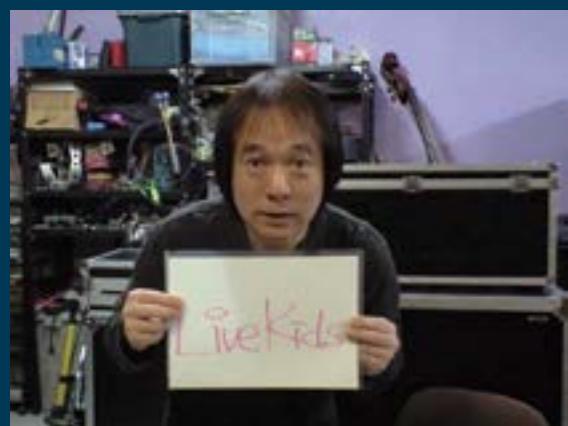
☆1LIVE KIDS とは？

Q1 「きっかけ」
LIVE KIDS 第14回～25回 kick off イベント、予選会場となっていました新風館のイベント担当者となり、前任者から引継ぎ切りを持たせていただきました。

Q2 「当初」
若い人達が中心となって、作り上げていこうとされていた姿勢など勉強にもなり、自分の大学生の時と比べて、皆しっかりと自分を持っているなあと感心しておりました。もちろん、イベント運営のところでは、気になる事もありましたが、皆さんのが助け合って進められていたのが印象的でした。

Q3 「その後、継続的に」
関わりを持たせもらった事はご縁であり、若い人達や協会がされている事を微力ですが、実現できるお手伝いをさせてもらえばと思いました。

オフィス・パニック
鈴木敦彦さん



Q1 「きっかけ」

吉村氏（J音楽企画）に声をかけていただきました。

Q2 「当初」

長い間、何をされているところか知りませんでした ^;

Q3 「その後、継続的に」

Message:

協会 30 周年おめでとうございます。また、LIVE KIDS 一旦お疲れ様でした。このイベントを通じて沢山の方々が携わられて、色々な影響を受けて来られたと思います。25 回という積み重ねをベースに、必要性を感じてもらえる新しい LIVE KIDS 開催に向けて、新たに 30 周年に進んで頂けたらと思います。楽しみにしております。その時はお手伝いさせてください。



Q4 「得られたコト」

若い人達が色々なカタチで頑張っておられることを知れたり、肌で感じる事が出来たのは大きかったです。また、アーティストの方たちもその後、新風館に出演して頂いたりと繋がりを持たせてもらいました。

Q5 「印象に残ったコト・エピソード」

毎回の事ですが、FM 京都の西田さんと若い人達が上手くイベントを進めておられる事が素晴らしいなと思っていました。

Q6 「関心のある Topic」

色々なジャンルでの若い人達の感性や表現力

Q7 「期待するコト」

若い人達が、音楽やダンスだけでなく、自分を表現する方法のきっかけづくりやサポートをもっと幅広く行って頂きたいと思います。

Message:

最初に参加させていただいた頃 20 代だった私も、いつのまにか出演者の親御さんよりも年上になってしましました。私が引退した後も、いつまでも続くと思っていたイベントだっただけに、本当に残念です。

長い間、本当にお疲れ様でした。

そしてありがとうございました！



Q4 「得られたコト」

他で中高生の演奏を聴く機会がほぼありませんので、上手に聴かせるテクニックを持たない純粋な音楽を感じられる事は年一回の楽しみでした。

Q5 「印象に残ったコト・エピソード」 Q6 「関心のある Topic」

Q7 「期待するコト」

一時、「バンド甲子園」的なイベントが各地で行われましたが、小規模でも出演が中高生の目標となるようなイベントを長く続けていただきたいです。

関わっていた「関係各社」にアンケートを行いました。アンケート項目は下記。

☆1.LIVE KIDS とは？一言で表すなら、どんな言葉が浮かびますか？

☆2.LIVE KIDS へのコメント (Message)

Q1. 当協会・事業と関わっていた「きっかけ」はどういったものでしたか？

Q2. 当初「当協会」「当事業」と関わり始めた中で、どのように感じておられましたか？

Q3. その後継続的に「当協会」・「当事業」に関わろうと考えたのは何故ですか？

Q4. 継続的に「当協会」・「当事業」に関わる中で、得られたコトはありましたか？

Q5. 協働していただいた中で、印象に残ったコト・エピソードはありますか？

Q6. 青少年・子ども若者に関することで、関心のある Topic はありますか？

Q7. 今後、「当協会」および「事業」に期待する「コト」があればお伝えください。（以下共通。）

株式会社 教映社
澁谷高明さん



挑戦 / 跳動 / 出会い

☆1LIVE KIDS とは？

Q1 「きっかけ」

前任者からの引継ぎ

株式会社 RYU さんからの依頼→御社からの直接依頼に変更

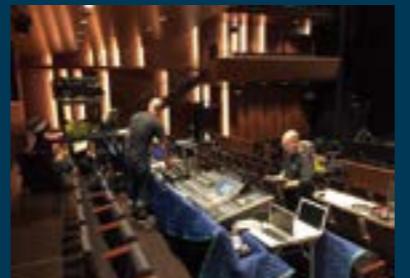
Q2 「当初」

イベントを自ら作り上げていく事によってこういう仕事に興味を持つてもらえたらしいなと思いました。

ただ、若干学祭のノリ感が強くて緊張感があまりなかった気がします。

Q3 「その後、継続的に」

最初は LIVEKIDS の機材提供という形でスタッフさんがオペレーションをやっておられましたが、作業工程が多くなり、弊社でお手伝いできる所はないかと考えました。



Message:

弊社的には現場で一年に一回皆様にお会いするだけでしたが、何年か前からリハーサルに立ち会わせて頂くようになりました。本番はたった一日ですが、それまでに至る苦悩や葛藤を乗り越えて、当日本番を迎えることはイベントに関わる業者としては、感慨深いものがありました。

皆様のお役に立てたかどうか未だに分かりませんが。非日常を味わっていただけて、今後の人生に役立てていただければ幸いです。

今回お世話になった方々との出会いは宝物です。

皆様の今後の更なる飛躍に期待したいと思います。

CHANGE YOURSELF!

Q4 「得られたコト」

普段、学生さんと話す機会がほとんどないので、こちらも刺激をもらえたと思います。若者と接する方法も今と昔は違うので、勉強になったと思います。

Q5 「印象に残ったコト・エピソード」

本番後に司会してた方が緊張から解放されたのか、感極まって泣いておられたので、やりがいがあったと思いました。

Q6 「関心のある Topic」

青少年事件の低年齢化 / 幼児虐待 / 幼児連れ去り事件 / 成人年齢の引き下げ

Q7 「期待するコト」

京都市に限らず、府で展開していただけたらいいと思います。

中学校と連携して悩みを持っている若者がもっと気軽に利用できる施設にできないかと思います。今の展開ではちょっとためらう人も多いんじゃないかなと思います。

川辺真司さん



Message:

今の時代は地域社会の希薄化や教育現場において経験、学ぶべきことの持ち越ししが進み、高等教育機関である大学においてリメディアルをはじめとする人間力の教育や道徳教育をしなければならない時代です。そのような時代において、ライブキッズのような性別年齢人種の差を乗り越え一つのゴールを目指す経験を得られることは若者にとって今後を生き抜くための大変重要なファクターだと考えています。今後とも是非“教育”や“学び”・・を(若者の目線に立った)柔軟な視点で研究、実践頂けますと嬉しい思います。

青春！ / Resonance(共鳴)

☆1LIVE KIDS とは？

Q1 「きっかけ」

LIVE KIDS 担当小嶋さんと知り合い、その企画内容に賛同したことがきっかけです。それぐらい深いお付き合いになります。

Q2 「当初」

市や協会が(企業ではない)予算の無い中、青少年の育成事業としてライブイベントを実施することは“お堅い”印象のある行政の取り組みとしては面白いと考えましたし、学びや経験、教育をロジカルな正論だけで推し進めることができないことが決して教育効果を高めるとは言えない…ということにも共感を得ていました。

Q3 「その後、継続的に」

やはりお世話になる学生達がその経験を通して多くの学びを得ることを感じたからでしょうか。前職では学生達が技術的サポートに協力させて頂くことで、習作の成果やプロの現場を体験できる場として、現職ではOP等コンテンツの制作により社会連携の場を提供頂くことや、作り手が視聴者の反応を生で感じる良い機会を与えて頂きましたこと感謝しています。

坂本拓馬さん



Message:

私自身、LIVE KIDS を通してアマチュアイベントを知ったといつても過言ではありません。しかしそこには今まで私があまり出会って来なかっただ熱い思いを持った参加者がおり、イベントを見て単純に感動する機会をもらいました。私が関わった年で最後という事も何とも感慨深い思いがあり、学生の中にはLIVE KIDS は来年はないのか、という声もありました。このイベントに少しの時間ではありますが携われたことは私にとって良い経験となりました。有難うございました。

音楽とダンスをこよなく愛する青少年のための一大イベント(宴)

☆1LIVE KIDS とは？

桃山社中 MUSIC CREATIVE 代表

辻井裕之さん



Message:

このLIVE KIDS というイベントが若者の文化に少なからずとも影響を与えていると信じています。これだけ長い間継続イベントというのはあまりあるものではありません。継続してきたからこそ付けている大きな力があることを信じてまだまだこれからも先に進んでいただきたいと思っています。京都から発信し続ける事、京都の若者の文化を支え続ける事が我々も含めて大人達の責任だと思っています。今後とも楽しいイベントが継続できますように微力ながら応援しております。

青春

☆1LIVE KIDS とは？

Q1 「きっかけ」

LIVE KIDS 本選の審査員として、JEUGIAより推薦をいただき、それ以来約5年に渡り関わらせていただいている。

Q2 「当初」

若者のボランティアスタッフが一生懸命動いていたのが印象的でした。彼らのこのような経験がこれから的人生において活かされると良いなと思いました。

Q3 「その後、継続的に」

小嶋さんと國府さんの人柄です。

Q4 「得られたコト」

まだそこから広がりはしていませんが、若い世代に向けてアプローチしようとしてる弊社の気持ちといずれいろんなシーンで合致して連動しているものと信じております。

Q5 「印象に残ったコト・エピソード」

ステージの上からたくさんの風船が降ってきたこと。とてもキレイな光景でした

Q6 「関心のある Topic」

弊社の事業のひとつでウクレレを若い世代に広げたいという想いがあります。大学生を連れて海外の孤児院に演奏に行ったりしているのですが、そういうことをもっと京都という地から発信したいと考えています

Q7 「期待するコト」

LIVE KIDS の継続はもちろんのこと、ウクレレの普及にも是非ご協力いただきたいと思っています。若い世代にとってこんなにもモバイルでインスタ映えする楽器は他にありません。今まで楽器を敬遠していた方々にも是非手に取っていただけるようなイベントやワークショップなどを積極的に展開していただきたいと思っています。



LK2009



LK2010



LK2013



LK2016 (25回記念大会)

Q4 「得られたコト」

数回に渡る打合せの中で学生の出した企画に対して様々な方から有難い意見、時には厳しい意見を頂けたことは学生達にとって良い経験になったと思います。勿論私自身にとっても。

Q5 「印象に残ったコト・エピソード」

イベント当日に招待していただき、学生たちの企画したオープニングアニメーションが一番最初に流れた時。

学生の中には感動して涙をこらえていた学生もいました。

Q6 「関心のある Topic」

LGBT の若者たち / 貧困層の若者たち

Q7 「期待するコト」

上記で述べた若者たちが積極的に参加できるイベントや持続可能な産業の確立。子育て世代が子育てしやすい環境や支援の形。

(京都は観光の街というイメージが強いが市民に対しての医療・福祉・子育ての支援が少ない気がします。大阪・滋賀・特に東京の方が子育て世代にとっては魅力的な環境が揃っている。)

ダンスコレオグラファー&インストラクター 平山香代子さん



夢の学び場

☆1LIVE KIDS とは？

Q1 「きっかけ」

審査員をされていた吾妻先生からご紹介いただきました。

Q2 「当初」

すべての役割を学生さんや、希望者でつくりあげ、そこに市や業界のプロの方がかかわり、指導していく形は、現場に直結した学びの場になっていると思いました。しかも本格的な大きな舞台のイベントになっていて、その日にむけて準備してきたという大きな達成感をスタッフのみんなが感じていたとおもいます。

Q3 「その後、継続的に」

コンテストにチャレンジしてくる出演者と、一生懸命に頑張っているスタッフの皆さんに感動させていただくことが多かったため。



Message:

やりがいのある仕事を舞台にかかわる事で、直に体験ができる素敵な場所だとおもいます。
出演者だけでなく、スタッフの情熱をとても感じる唯一のコンテストでした。
一緒に関わさせていただいたことを、嬉しく思います。
本当に有難う御座いました。



Q4 「得られたコト」

Q6 「関心のある Topic」

青少年の SNS とのむきあいかた

Q7 「期待するコト」

青少年達の考案した事業を、かたちにできる場所があったりしたら素晴らしいとおもいます。

発想はあっても、かたちにできないことをお手伝いできる場所。
地域と青少年がかかわる事業。

ペーパークリーリング作家

(「ザ・クリーリング・ギルド・コンペティション」2017年ヨーロッパ総合1位

元クリエイティブコンセプツ(株))

鍋川由喜子さん



青春

☆1LIVE KIDS とは？

Message:

今回のアンケートに答えさせて頂くことで自分も初心になることができました。
あの頃はライブキッズのスタッフのみなさんと一緒にイベントの成功という一つの目標に向かって一生懸命にがむしゃらに走っていました。
その『がむしゃら』が今も私の活力になっています。
迷走する若い世代にライブキッズを通していろんな経験をし、夢を選択できる貴重な事業だと思っています。そしてそこで積んだ経験は夢を育て、一緒に乗り越えた仲間はいつまでも自分の心を支えてくれます。
そんな経験と一緒にできたこと、サポートという立場でしたが今でも私の宝物です。
いまでもみんな、どうしてるかなあ？会いたいなあ…と思ったりします。
私も頑張っているので、みなさんもあの経験と思い出と一緒にこれからも頑張っていってほしいです。

そして25年間、続けてこられた京都市ユースサービス協会の小嶋さん、國府さん、
本当にお疲れ様です。区切りがついたとは言え、こんな素敵な事業が終わるとは私も思つていません。

復活の際には25年間のみんなでまた何かを成し遂げましょう !!
そしてまた未来へ !! 楽しみにしています !!



Q1 「きっかけ」

クリエイティブコンセプツ(株) ライブプロジェクトの仕事の一環として。

Q2 「当初」

将来を夢見る若者がひとつの事業を経験できる貴重で素晴らしい事業だと思いました。

Q3 「その後、継続的に」

仕事の一環ではありましたが、スタッフのみなさんと接する中で、それが持つ夢へのアドバイスや経験を伝えることができた場でしたし、自分も初心に戻れるいい機会の場でした。

Q4 「得られたコト」

ライブキッズは『継続的』が大事なことで、携わるメンバーが経験を積み、社会に出た時もその経験に知恵をもらって社会でも即戦力で活躍できる経験の場だと思っていました。

成し遂げることを通して得られるものは人生のヒントもあると思います。



Q5 「印象に残ったコト・エピソード」

私も含め、一つ一つの問題にみんなで向き合い、泣いたり笑ったり、挑戦したり…、時にはみんなの思いを達成するために上司をごまかしてなんとかできないかと考えたり(笑)、いろんなことがあります。みんなの一生懸命さに何度も心を打たれたのを今でも思い出します。そんな思い出や、やりきった時の達成感の感動は今でも私を前に向かわせてくれています。

Q6 「関心のある Topic」

音楽や舞台、イベント運営、特殊な業種を若い頃に経験出来るというのはすごく貴重な経験だと思います。その機会ができるライブキッズは、夢を持ちにくくなった若い世代には希望の事業だと思います。
経験は人を育てます。みんなでやりきった思い出は心を支えてくれます。
そんな未来を創る素敵な希望の事業を、これからも続けていってほしいです。

Q7 「期待するコト」

『6』で書いたように、若い頃にこんな経験ができるのは夢の選択の範囲が大きく広がるということ。夢を持つことが難しいこの時代、経験を通して未来を選択できるこの事業は本当に素晴らしい事業だと思います。運営する側も、出演する側も、来てくださるお客様も、それをサポートする業者もみんなが繋がり、ひとつになれる事、なかなかない機会だと思います。なので、また是非若い人たちが夢を持てるきっかけのひとつとしてライブキッズは是非とも復活して欲しい。そしてそれぞれの夢を叶える醍醐味を、自分の人生の中で味わってほしいと思います。

有限会社 T&HY 徳竹 敏之さん



Q1 「きっかけ」

1991年の第一回ライブキッズ開催の時、(株)十字屋さんを通して音響のお仕事を頂いた。

Q2 「当初」

当時色々な企業や団体が音楽イベントに手を出していました。しかし、ほとんどのものは2~3年で何となく終わってしまうというのが実情でした。コンテストなのに賞金も出ないし「ま、ようもって3年だな」というのが個人的な感想でした。

Q3 「その後、継続的に」

3年で終わるはずのライブキッズが4年5年と続いてきて、それとともに認知度も高まり応募数も増えてきて、だんだんと「ちゃんとした」イベントになってきたからです。

株式会社 RYU 鈴鹿 摩耶さん



Q1 「きっかけ」

(株)リュウより、舞台監督補佐としてお世話になりました。

Q2 「当初」

ライブキッズという事業については、年齢や所属の垣根を越え、いろいろな問題に直面し、試行錯誤しながら一つの舞台を創り上げられることは、若い方たちにとって貴重な成長の機会になっていたのではないかと思います。

Q3 「その後、継続的に」

長年に渡り、お仕事をご依頼頂きました。ありがとうございました。

☆1LIVE KIDS とは？

あえて言うなら 無償の愛



Q4 「得られたコト」

これは少し難しい質問ですが、少なくとも協会の担当者の大きなエネルギーを感じることはできました。

Q5 「印象に残ったコト・エピソード」

プロの制作チームが主体となって作れば、時間もエネルギーも数分の一度できるはずです。しかし、ライブキッズはたくさんの若者ボランティアスタッフが作っていくイベントであって、そのプロセスそのものがライブキッズなのだと思います。そして我々はほんの少しその手伝いをしているのだと。

Q6 「関心のある Topic」

常に新しいものを生み出すのは若者です。音楽や舞台芸術に限らず、特にデジタル技術を使った新しいものはとても興味があります

Q7 「期待するコト」

ライブキッズがそうであったように、若者が主体的に動ける場を提供し続けて欲しいと思います。

株式会社 RYU 山下恵美さん



Message:

協会30周年おめでとうございます。

新しい、ライブキッズのような、若者が生きる希望をもてるような、大人になる事に対して希望を持てるようなイベント、ユースサービス協会しかできないこと、きっとあると思います。

それをまた一緒に創りたいと願っています。

ライブキッズは、わたしにとって大事な場所です。
私も頑張ります！



ひとこと。。。なんですかね。 青春？

Q1 「きっかけ」

会社の先輩が舞台監督をしていたが、当時自分も20代後半でLIVE KIDSボランティアスタッフの皆さんと同世代という事もあり、先輩の指導のもと、舞台監督を務めさせて頂きました。

会社に入って2年目3年目の頃だったので、よく私に任せて頂けたなど今は思います。

毎週火曜のボランティアスタッフのミーティングにも参加し、時に皆と一緒に企画し、悩み、考え、イベントを若い世代と企画から創りあげられたことは、今の自分の仕事の礎になっていると思います。

Q2 「当初」

現在、学校に行きたくても通えない人もたくさんいると思います。ライブキッズのボランティアスタッフは、下は高校生、上は30歳までと、幅広い年齢の皆さんのがお互いの環境や立場を乗り越えて一つのものを創るという、なかなか体験出来ない事が経験できる、お互いがフラットでいられる環境だと思います。大人が全部を取り仕切るのではなく、若者に責任を持ってもらって若者主体で行動できる場所だと思います。

その中で、自分の将来を見つめたり、色々な事を考えて大人に成長していくたくさんのきっかけのある場所だと思います。

弊社は具体的には、イベントの企画制作のお手伝いから、当日の舞台監督、照明技術業務など行っておりましたが、すべて若者主体でこちらも関わらせて頂きました。

なかなか、そういう事がまかり通る仕事も若いうちは滅多に経験できませんので、私や他の弊社社員にとっても貴重な機会を頂けた事、深く感謝しております。

Q3 「その後、継続的に」

自分にとって、弊社にとっても2で書いた通り得るもののがたくさんあったため。

Q4 「得られたコト」

私は毎週のようにミーティングにも関わらせて頂いておりましたので、濃密に協会の皆さんやボランティアスタッフと関わっていたと思います。そのなかで、イベントを企画段階から京都市の施設を担う京都市ユースサービス協会の職員の方々と創れた事は自分自身の仕事のノウハウが向上しました。

Q5 「印象に残ったコト・エピソード」

特に印象に残っていることは、本番後の最後のミーティングで一人一人に言葉を伝えて、みんなも一つのものをやり遂げた達成感で御礼を言ってくれたりした事です。

時には叱ってみんなを凍り付かせたこともあります…。

Q6 「関心のある Topic」

今の青少年たちが日頃なにを思って考えているのか、段々自分が年齢を重ねて行くなかで分からなくなってきた。青少年と大人とがふれあう事が昔より難しいのかもしれません。そういう機会が今はどのくらいあるのでしょうか。あと、個人的にきになるのは、こども食堂などです。



株式会社 RYU 小川順也さん



☆1LIVE KIDSとは？

初物づくり (初めての仲間、現場、体験、感動)

Q1 「きっかけ」

始めはボランティアスタッフとして関わり、その時から照明に興味がありました。

その後 RYU に入社し、今度は照明スタッフとして関わりを持つことができ最終的には1年だけですが、プランナーとしても関わることが出来ました。

Q2 「当初」

若い人たちが集まって1つのことを作り上げることは大変ですが、その達成感や感動を一人一人が感じてほしいと思いました。

もちろんうまくいかない事もいっぱいあり、反省する事も多いですが、何年も続ける事が解決策の1つかなとも思います。

Q3 「その後、継続的に」

年々関わる事が少なくなりますが、やはり自分の中では今の原点になるので、どのような関係になろうと関わりは続けていたらと思います。

また若い世代に自分の経験や知識を伝えていけたら良いかなと思います。



Message:

自分が高校生の時に LIVEKIDS に出会いボランティアスタッフとして関わっていました。今でもこのような形で関わりが持てる事を大変うれしく思っております。また周りの人の力も大きく今の自分がいる事に大変感謝しています。自分が関わって10数年あつという間でしたが、年々変わっていく事もあり、変わらない事もあり、続ける事の難しさや時代の変化を考えさせられます。どのような形であれ今の関係性は続けていきたいし、また何かのイベントに関われたらと思っています。

Q4 「得られたコト」

やはり人間関係ですね。

ボランティアスタッフの時に見ていた照明ですが、まさか自分が照明プランナーとして LIVEKIDS をやるとは当時は思っていませんでした。これが実現出来たのも、ずっと関わりがあったからだと思います。またボランティアスタッフをやっていたメンバーや当時関わってくれた、たくさんの方と今もたまにお会いできる事を嬉しく思います。

Q5 「印象に残ったコト・エピソード」

スタッフ一丸となり本番を終えた時のみんなの表情がとても良かった事です。

これはボランティアスタッフの時も照明スタッフの時も同じでした。やはりみんなが目指しているところが一緒なので、LIVEKIDS は年齢や経験、プロのスタッフかというのは関係ないのかなと思いました。もちろん技術面の事や企画段階での構成など、伝えなければいけない事も多いですが。みんなが楽しんでやっているという事が印象に残っています。

Q6 「関心のある Topic」

高校野球、パワハラ

Q7 「期待するコト」

1つ事業の継続と新たな挑戦ができるイベントの企画、実施

若い人達が京都市から全国に発信出来るようなイベントが出来ると良いかなと思います。

株式会社エフエム京都 (α-station) 担当者・審査員・DJ 全ての皆さん

今回、冊子へのアンケートにお答えいただくことが叶いませんでしたが、これまで多くの場面で支えていただいた感謝の気持ちをお伝えしたく、LIVE KIDS 担当者からエフエム京都様への想いを綴らせていただきます。
(※下記、青少年ボランティアスタッフ = スタッフと記載します。)

(公財) 京都市ユースサービス協会 小嶋 薫
(第1回～25回 LIVE KIDS 担当)

1991年3月、第1回大会の開催後、同年7月1日に地元京都にエフエム局が開局しました。この開局に合わせて、門前払いも覚悟で、LIVE KIDS に協力して欲しいと、当時FM局のある北山へ飛び込んだのが始まりでした。第2回大会から協力として、6回大会から後援をいただきながら、25回まで一緒にさせていただきました。最初は名義の使用からスタートし、審査員の派遣、当日のメイン司会としてDJの方をお迎えし、出演者の番組紹介やスタッフとの局報の制作、ミュージック部門ではα-station ベストヴォーカル賞、DANCE 部門ではα-station チームワーク賞、来場者の方への賞品提供をいただきました。回を重ねるごとに関わりも増え、企画・運営において、スタッフ、来場者、出演者の目線にたった多くのアドバイス・提案をいただきながら進め、担当職員、スタッフもイベントの制作において多くのことを学びました。書き出すと切りがありませんが、感謝の想いでいっぱいです。

本当に長い間、ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いします。

(公財) 京都市ユースサービス協会 國府 宙世
(第20回～25回 LIVE KIDS 担当)

主催の当協会・京都市の方針、前年大会の省察と改善策を踏まえ、毎年 LIVE KIDS の方向性をともに考えていただきました(青少年スタッフ支援委員会)。「世の中の動きや変化」「お客様(来場者)の視点」を意識し大切にすることを、いつもご担当者から学ばせてもらいました。またスタッフや出演者たちが、活動の中でそれぞれの可能性を發揮し取組む姿を「いかに発信するか」と常に考えてくださいました。大会出演決定の発表や、出演者の意気込み・特徴、MUSIC 部門は音源を何週にも渡って番組内で紹介させていただく機会/スタッフが考えた文言でのスタッフ募集・出演者募集の局報／DJ(当日司会)とスタッフが一緒にイベント開催局報を収録する機会/番組にスタッフがゲスト出演させていただき、活動中のスタッフの想いの発信や、募集の広報をさせていただく機会。上記は回を重ねる度に、ご担当者からご提案いただいた機会で、私が担当になった2009年度には毎年実施する恒例の取組になっていました。毎年「もっと機会を」と、青少年が活躍できる・経験できる場を考えて増やしてくださいました。最終打合せだけでなく、スタッフの練習の場にDJとご担当者が何度も訪れ、一緒に練習をしアドバイスをいただく機会/大会終了後スタッフミーティングに、DJとご担当者も参加し一緒に省察(ふりかえり)をする機会。また、進路相談などスタッフの相談にも乗って頂きました。スタッフに LIVE KIDS はどういう場であったかを聞くと「普段のコミュニティでは経験できない機会がたくさんあった」と言う声が多くありました。そんな機会をたくさん戴いたこと、ユースワークへの理解・協力、ユースワーカーにとっても多くの支えをいただき、本当にありがとうございました。特に私が一生忘れない場面は、2011年3月11日。その日はリハーサル中、スタッフも出演者も翌日本番で練習の集大成を見せようとしていた時に東日本大震災が起きました。大会を実施するか否か、またこの未曾有の事態に私たちは何ができるのか等とても考えさせられました。この時は東日本大震災で被害にあられた方を想い、若者のエネルギーを発信し、義援金を募る取組として開催することにし、来場者・出演者・スタッフ関係者他たくさんの方に募金をいただきました。開催判断のプロセスにおいては、これまで頑張ってきた青少年皆でこの大会を創る意味、この状況で大会を開催するためのあり方を、ご担当者が必死に考えてくださいました。判断後も、どういったメッセージを伝えるべきか、台本を夜遅くまで変更してくださり、今思い返しても涙が出てきます。最初の頃から担当する小嶋は、ご担当者に見えないところで号泣していました。いつも若者の可能性の発揮に繋がる「機会・場をつくること」へたくさんの想いをいただき、本当にありがとうございました。何卒、今後ともよろしくお願い申し上げます。



株式会社 JEUGIA 担当者の皆さん

今回は冊子へのアンケートにお答えいただくことが叶いませんでしたが、これまで多くの場面で支えていただいたことへ、心からの感謝の気持ちをお伝えしたく、LIVE KIDS 担当者から JEUGIA 様への想いを綴らせていただきます。(※青少年ボランティアスタッフ = スタッフと記載します。)

(公財)京都市ユースサービス協会 小嶋 薫
(第1回~25回 LIVE KIDS 担当)

第1回の開催にあたり、担当・スタッフ自身が音楽分野・イベントの制作に疎く(株)JEUGIAの協力をお願いし、第1回大会から協賛、制作協力として25回までご一緒させていただきました。審査員の派遣、JEUGIA各店舗での広報、ボランティアスタッフの研修の受け入れ、ミュージック部門ではJEUGIAベストプレイヤー賞や審査員特別賞、DANCE部門ではJEUGIAパフォーマンス賞、来場者の方への賞品提供等をいただきました。何より、音楽イベントの制作に携わる部分をプロデュースしていただいた、当時の(株)クリエイティブコンセプツJ音楽企画(のちに(株)JEUGIA J-コンサート企画に社名変更)の手を借りながら16回大会まで制作の中心として支えていただきました。イベントのプロとして、ボランティアの運営に接していただき、広報、集客の重要性、イベントの成功とは!をしっかりとたき込まれました。また、毎年より良い舞台を創るために担当していただいた制作チーム、RYU、T&HY、京都舞台、OFFICE PANIC、KYOUEISHAさんなど、JEUGIAファミリーの皆さんとLIVE KIDSを繋げていただきました。本当に長い間、ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願ひします。

(公財) 京都市ユースサービス協会 國府 宙世
(第 20 回～25 回 LIVE KIDS 担当)

第1回から長年、当協会の事業 LIVE KIDS を支えていただき、ありがとうございました。貴社がイベントプロデュースに関わってくださった時期に、私は携わる事が出来ませんでしたが、スタッフから、その当時の経験から学んだという声を多く聞いています。イベントの成功に向けて、真剣に想いや意見を伝えあい夜遅くまで作業したコト、たくさん泣いたコト、あの時受けた真剣な想いと言葉が、今でも糧になっているなど。スタッフにかつてない経験を教えていただき、ありがとうございました。青少年を取り巻く環境も変化し、イベントを創りたいよりも、家庭や学校で見せる姿とは違う自分らしさの発見・発揮、新しい環境で仲間をつくりたいなど、ボランティアスタッフのニーズも変化しています。そんな今でも、当時スタッフだった方々の多くが繋がり、この25回記念大会でも帰って来て、現役スタッフたちを支えてくれました。そんな姿を見ていると、当時の体験が若者たちにとってとても貴重な機会であったことを感じます。これまで、たくさんのご助力をいただき、本当にありがとうございました。

何卒、今後ともよろしくお願い申し上げます。



舞台關係 參考資料

LIVE KIDS DANCE

フォーメーションシート

プログラムNo	No. 〇〇〇〇
チーム名	〇〇〇〇〇〇
チームの人数	2名
TIME	〇'〇〇

TIME 0'00"	照明への要望 暗転、板付き、音先行 ホリゾント希望です。 !曲目コンセプト 月の夜(優雅なかぐや姫が月を見ているような寂しさから朝霧(力強さ)風を切ってゆく)へ移り変わるイメージ	客席	①
TIME 2'19"	照明への要望 ♪2人で少しユンジン →2'39'~ソロ2人目(線) 2つの光が入り交ざり、入れ替わるイメージ。 ソロが始またら⑤同様の照明をお願いします。	客席	⑥
TIME 0'07"	照明への要望 0'20"までじっくり時間をかけて 、シルエットが浮かんでくる。 0'21"からは、少しずつ顔が見えてくるくらいに明るく。	客席	②
TIME 3'26"	照明への要望 ♪一瞬音がなくなる →尺八(最初のフレーズ) 10秒程度暗転にしてください。 急に消えなくても大丈夫です。	客席	⑦
TIME 0'26"	照明への要望 ▶曲が一気に激しくなる 音に合わせて、お任せです。色や雰囲気は後から神秘的な感じです。	客席	③
TIME 3'35"	照明への要望 ▶尺八ソロ終わりがけ 一とが入ってくる ②と同じ感じで、ダンサーの動き 初めからじわじわと見えてくる感じ。	客席	⑧
TIME 1'17"	照明への要望 ▶曲が一気に大人しくなる かぐや姫が竹やぶで月明かりに照らされているイメージです。	客席	④
TIME 3'53"	照明への要望 曲が一気に激しくなる (③と同じフレーズ) 朝の大暁が昇り、風を切って走る感じ! クライマックスに向かう程、どんどん強く激しくなる。(赤い赤?)	客席	⑨
TIME 1'38"	照明への要望 ▶ソロ一人目(藤色) ソロの周りを少し暗く、踊っている人に会う色の照明をお願いします。	客席	⑩
TIME 4'44"	照明への要望 ▶アウトロへラスト 藤が高く昇り(ホリ黄色系さわやかな色)、崖の上で何かを強く決意するイメージです。 ポーズをとったら一回かつよく照らして暗転。	客席	⑪

□ (カットアウト)

LIVE KIDS セッティング表

N.o. 〇〇〇〇

● 演奏曲

バンド名	○○○○○○○○○○	ジャンル ロック	中高校生	・ 一般
曲 名①	○○○○○○○○○○	15 分	スロー	・ ミディアム・アップ

メンバー名	パート	年齢	メンバー名	パート	年齢
○○○○○○○○○○	Vo.	○○歳			
○○○○○○○○○○	Gt.	○○歳			
○○○○○○○○○○	Ba.	○○歳			
○○○○○○○○○○	Key.	○○歳			
○○○○○○○○○○	Dr.	○○歳			

P.A.へのコメント	照明へのコメント
   KEY B. AMP DRUMS 右 左 G. AMP G. AMP	 

ドラムセット(右利き)
ベースアンプ(下手)
ギターアンプ持ち込み(上手)
ボーカル(上手)

持込機材	備 考
ドラム(スネア、ペダル) ギターアンプ ボーカルマイク(Beta57)	ワイヤレス 有・無 スモーク 有・無 (※スモークは基本有)